

明石高校放送部回想(2020年版)

* 毎年、12月に改訂中…ガウディのサクラダファミリアではないですが、永遠に完結できず・・・
今回、年末にバタバタしてしまい、年始になってしまいました。申し訳ありません・・・。

「放送委員会？放送部？から数年・・・、ようやく“放送部”として定着・・・

ここ数年を振り返る・・・まだまだ力不足は否めず・・・」

2020年版について…

2020年、本来ならば“東京五輪・パラリンピック”が開催される華々しい年になるはずだったと思います。ですが、2月以降、新型コロナウイルス感染拡大に見舞われ、学校も2月27日に「感染拡大防止のため3/2～春休みまでの休校要請」がなされ、「春季休業中は1日2時間の部活動可能、4月から学校再開」という動きになってきたのもつかの間、4/7には「週1回の登校日・部活動不可」になり、混乱の中始まったと思った途端「5/6までの休校・もちろん部活動不可」になり、時が過ぎて行きました。確かに、“部活動”どころか“学校”が、“学校”どころか“命”がという状況です。世間では、高校野球のセンバツ大会が中止になり、東京五輪・パラリンピックが1年延期、全国高校総合体育大会も中止、その他多くの大会やイベントが中止や延期になりました。そして、4月27日15時、ついにNHK杯も苦渋の決断の下、全国委員長より中止との発表がなされました。兵庫県の放送部にとって、唯一の兵庫県開催の全国大会のために**5年という時間をかけて準備してきたものが一瞬にして消え去った瞬間**です。さらに4月28日には休校期間を5月31日まで延長するとの決定が届きました。なんと3ヵ月もの臨時休校期間です。部活動どころではありません。ただ、このような状況ですが、3年生にとっては最後になります。何とか少しでも放送部員を泣かせない方法はないかと試行錯誤し、“全部門非公開審査”という形で「2020兵庫大会記念 放送コンテスト」が実施されました。誰も創造しなかった様々な変化があった2020年でした。放送部も“絶滅”寸前です…。これで終わりか…。

ただ、学校再開後の6月、7名の新入部員が参加してくれ、“夢”がつながりました。「新しい生活様式」と言われる昨今です。“新しいチャレンジ”ができればと思います。新入部員はその後もあり、兼部が多いものの12名にまでなりました。

ただ、この回想も今回が最後になるかなと思います。「次に繋がねば」との思いで過去を掘り起こし作成してきましたが、正直、疲れました。様々な意味で限界を感じるようになってきました。もし、力が残っていれば2021版も作成したいと思いますが…。

(前書)最初に耳にした時、ビックリしたこと…

縁あって、各校の放送部顧問の先生方と情報交換をさせていただいていた時、私が顧問をさせていただかずと以前から放送部顧問をされている他校の先生から「昔の明石高校、知っているか？」と聞かれ、もちろん知りませんので「知らないです」とお答えしました。すると、全国の放送部顧問の間で有名な話として、「以前、明石高校が大会の会場になった時(平成の前半?)、当時の校長先生が高らかに**「明石高校は！いかなる大会でも負けません！！なぜなら出場しないから。」**と宣言された。我々も驚いた。」と教えていただきました。まさにブラックジョーク？のような…。でも、それが実態だった時代があったということだと思います。教えていただいた頃には、明石高校放送部は各大会に参加を続けていましたので、それなりに認めていただけたからこそ教えていただいたのだと思います。ありがたいことです。

さて、現在の明石高校放送部、まだまだ力不足です。でも、何かとチャレンジを続けようとしています。以前の校長先生が宣言されたことが伝統かもしれませんが、それを変化させようとしています。で、“明石高校はなかなか勝てません！なぜなら、各地の強豪と競っているから。”というところですか。何が良いのか試行錯誤をしながらですが、部活動ですから、やはり参加している部員にとって少しでもプラスになるような取り組みを続けたいと思います。

顧問の覚書(総論)?

縁あって明石高校に赴任させていただいたのが2006年、それ以前のことはいざ知らず、2014年頃まで、放送部なの？放送委員会なの？どっちなの？と言われつつ、「学校の役に立つ」「各大会の全部門に参加する」の二つを柱として活動してきました。そして各大会の会場としては、2010年6月、第57回NHK杯全国放送コンテスト兵庫県大会第3地区予選会場、2013年11月、第37回兵庫県高等学校総合文化祭予選会場、2015年からは夏のリーダー研修会会場、2016年からは放送フェスティバル会場も担当させていただいています。いずれも継続中

です。2017年11月には第41回兵庫県高等学校総合文化祭予選会場も担当させていただきました。

まさに“部活動”。会場校をすることの大きなメリットは何といっても生徒の成長です。会場校になると生徒は、参加するだけでなく運営に関わることになります。多少とも先を見ながらの動きが必要になります。そうすることで、大きく成長する機会となります。2017年には第64回NHK杯全国放送コンテスト朗読部門で全国大会へと進出しました。まさに明石高校にとって40年ぶりの快挙でした。以後、なかなか継続できず全国への高い壁を感じていますが……。2020年の夏には、東京オリンピックとの兼ね合いで、なんと第67回NHK杯全国放送コンテストが兵庫県で開催されます。部員たちには是非この大会に関して少しでも成長して欲しいと願っています。もちろん、地区大会・県大会を勝ち抜いて進出できるようチャレンジしてほしいと思います。

たかが数年、されど数年。顧問として、放送委員会(2015.4からは放送部)の生徒を見ていて感じることを、忘れないうちにまとめてみたいと思います。振り返るといろいろあったなあと改めて思います。同時に、次へ向けての課題も見えてくるなあと思います。ただ、見えては来ても克服にはまだまだで、部活動としても発展途上です。でも、諦めずにボチボチとでも進歩できればと思っています。

顧問の覚書(各論)?

2006年 明石高校に着任して、担当した部活動は放送委員会ではなく、男子ソフトボール部の2人目の顧問です。(以後、2013年まで男子ソフトボール部には関わらせていただき、生徒の頑張りや、全国選抜大会や近畿大会出場の実験もさせていただきました。また、他校の先生方にもお世話になりました。2013年の新チームからは、新たに顧問になられた新監督の方針もあり、男子ソフトボール部からは離れて放送委員会に関わっています。)放送に関しては、特に放送委員会に関わることも無く、個人的にも職場に慣れておらず部活動どころではない状況にもあって、最初の1年は過ぎて行きました。正直、この1年は「身体が持つのかなあ」と思うほど訳のわからないまま過ぎて行きました。ちなみに、この年、「部活動の希望で“放送”とお伝えすると「何を考えているのか!!楽しんでしているのか!!“部活”といえば運送部に決まっている!!」と返されたことが強く印象に残っています。

2007年 放送委員会の3人目の顧問という形で関わることになりました。当時、担当していた3年生(60回生)の部員はゼロでさらに3人目の顧問でしたので、何となく「フ〜ン」という形で過ぎました。誰が部員なのかも良くわからず、放送委員会の動きも良くわからず時間が過ぎて行きました。ただ、よく気がついて動くことができる生徒はいるなと感じることはできました。

2008年 2人目の顧問のような3人目の顧問のような形で関わった年です。まだまだ片手間のような形での関わりでした。そのため、部についても集団指導体制のような運営の放送委員会でした。ただ、当時の3年生は全員美術科の女子でなかなかのまとまりがあり、体育大会や明高祭では良く活躍していました。ただ、大会参加については、「以前からラジオ番組1本と決まっている」(部の方針??)らしく、「この程度なの?何か変だな?」と思いつつ時間が過ぎました。おまけに、放送部のご多分に漏れず、大会前日に深夜まで活動するという状況でした。当然、保護者の苦情も来ます。その時、良くわからず残っていたのは私です。そして、良くわからないまま苦情をお聞きするという状況でした。良くわからないままですから、何をおっしゃられてもお答えすることができません。そこで考えたことが**“アンチテーゼとしての明石高校”**です。要は、“放送部というものは、大会の前日には深夜まで、時には当日の朝まで作品制作に取り組むもの”だからこそ“全国大会へ出場できる”“結果を出せる”という常識(?)、いわゆるテーゼがあるようで、何とかそれを覆してみたい。下校時間を守った活動で全国へ出場したい。そうすることで、ごくわずかの先生方以外は放送部活動に関わるできない(関わろうとしない?)状況を改善できないものか。誰もが、多くの先生方が普通に放送部の顧問ができる、そういう状況にできないものかというものです。生徒についても、キッチリと家庭学習の時間を確保させることが出来ないもの

かと考えました。以後、明石高校では、下校時間を守りながらの活動をしています。とはいうものの、これまでの結果として、残念ながら、2014年現在で、地区大会から県大会までは何とか進出しているのですが、それ以上は実現出来ていません。ですが、近い将来には、必ず“全国”と名の付く大会に出場したいと考えています。

また、学校の各行事への関わりについても、明高祭と体育大会以外は「放送委員会は関わらない（関わらせない?）」というのが基本のようでした。「なぜですか?」と尋ねると「上手く出来なかったら生徒がかわいそう」というもので、これにも、口では「そうですか」と言いつつも頭の中では「?????」でした。正直、この状況をいつか変えなければと思いました。

2009年 第1顧問というか、主顧問というか、兼部でありながらも放送委員会を中心に関わることになりました。周りからは「本当にできるの?大丈夫なの?」という目で見られている中でのスタートでした。何かあると「前任者に聞けば・・・」と言われることもありました。「何か・・・、納得できない・・・」の複雑な心境でもありました。しかし、やはり、転機はあるものです。この年、教育実習に放送委員会OGの58回生が来ました。この58回生が良くやってくれました。在学中の思いもあつたかに思いますが、使わない物は処分してスッキリしたいとの顧問の思いを受けて、使いやすい放送室にしてくれました。本当にありがたかったです。その他、放送室の放送卓も新しくなりました。おかげで、放送を流すための訳のわからない配線をする必要がなくなり、スッキリしました。また、ようやくパソコンが1台入ってきた年でもあります。以降、パソコンを始め、放送委員会の活動に必要な物をそろえるため、部費を使うだけでなく、教育振興会からも補助をいただきながら購入して行きます(ちなみに2013年現在の形になるまでに5年かかりました)。当時、部員は3年生3人、2年生4人、1年生4人という、放送部としてはマアママの人数でした。ただ、各行事の運営について、放送委員会が関わると指示すると、当時の3年生から返って来た答えが「なんでやらなあかんのですか?」というものでした。これには驚きました。以後、「放送委員会であるならば、各行事に関わるべきものなのだ」ということを言い続ける日々でした。そのうち、多分シブシブだったのかもかもしれませんが、徐々に関わる事ができるようになってきました。ただ、まだまだ周りの目は厳しく、ウロウロすると邪魔だ、目ざわり云々というものがほとんどでした。ホトホト、これまで何をしてきたの??と感じる日々でした。そう感じながらも、各行事への関わりを増やしていきました。

大会についても、「参加できる部門には参加する」ということで、従来のラジオ番組だけではなく個人部門にも参加を始めました。同時に、翌年のNHK杯予選会場に決まりました。聞くところによると、明石高校は平成の初め頃までは放送委員会が良く頑張っていて、“地域の拠点校”になっていたようです。実際に、平成7年にはNHK杯の地区大会予選会場校として使用されています。たまたま、この時のパンフレットが残っていました。ただ、その時期以降は、「負担になる」「他の部が反対する」等などで会場校になることもなく過ぎていたようです。講堂もあり、交通も便利な立地にあるので放送文化部からも「会場校として使わせてほしい」との要望はずっとあったようです。しかし、会場校になることなく時間が過ぎて行きました。放送委員会の活動の記録もこの時期の分は途切れています(29回生から47回生は“卒業記念色紙”が残されています。61回生以降は放送室に“卒業記念写真”があります。48回生から60回生までが???の状況です)。こういう状況の中での会場校、15年ぶりの会場校です。顧問としては、「何とかなる」と思っていました。当然、不安もありました。ともあれ、会場校に決まったことは、放送委員会にとっても大きな転機となりました。自己満足だけではなく、少しずつながら、外へも目が向くようになってきたと思います。

ついでながら、放送委員会の役割として、この年から下校放送もスタートさせました。

2010年 NHK杯全国放送コンテスト兵庫県大会第3地区予選会場校です。会場校になったからではありませんが、この春、待望の講堂放送室が設置されました。それまで講堂には放送設備はありましたが放送室はなく、卒業式や入学式の時にはミキサーやデッキを持ち込み、ややこしい配線、そして操作をする状況でした。おまけに、

式の時には、設備の周辺にも立つ人が多く、式の進行がまったく見えず、どこで曲を流したものやら全く分からない状況でした。よくこれで式典の運営ができたものだと思える状況でした。そのため、放送委員会に関わって以降、ずっと「設置して欲しい」「何とかしてほしい」と言い続けました。しかし、言い続けても放送委員会の存在がほとんどない状況では、思いが通じるはずもなく、当然、予算も厳しい状況でなかなか実現しませんでした。それが、2010年の春ようやく実現しました。ただ、完成はしたものの放送室の窓の位置と放送卓の高さが合わない、放送室の天井が無い、放送室の鍵が無いという状況でした。さらに、もう予算はないという状況です。それで、どうしたか。仕方が無いので、64回生の生徒と放送卓の高さを高くするため、廃材を見つけてきて台を作りました。寒風の中での作業で、強く思い出に残っています。さらに、天井用の板を購入して、脚立に登って天井をつくりました。現在でも、自作の台、天井とも現役です。そして、何とか無理を聞いていただき、ちょうど良い高さに窓を調整していただきました。鍵についても、ゴールデンウィーク明けに何とか付けていただきました。ようやく完成です。実際、64回生はこの後、講堂放送室には強い思い入れをもって活動してくれました。ある意味、“放送委員会中興の祖”とも言えると思います。

さて、大会です。大会へは、会場校として、できるだけ多くの部門へ参加しました。運営については、当時、2年生の64回生が主力となり、3年生の63回生も1年生の65回生も、それに刺激されてよく動いてくれたと思います。顧問から聞くのではなく、実際に参加各校の放送部の動きを見ることで、「このままではいけない」と、少し目が覚めたように思います。この経験の中で、放送委員会の基本として「**学校の役に立つ**」「**各大会全部門に参加する**」という二本柱が確立しました。ようやく放送部らしくなってきました。各行事への放送委員会への関わりについてもこれまでの「邪魔になる」から「良くやってくれる」へと徐々に変わってきました。

学校行事についても、2年生を主力として、各行事ごと分担を決めてやらせていきました。当初は「??」ということもありましたが、回数を重ねるにつれて恰好が付いてきました。「お昼の放送」についても生徒自身がアイデアを出しながらできるようになってきました。

2011年 「学校の役に立つ」という点については、板についてきたと感じます。それぞれの行事で、それなりに考えて動くことができました。同時に、周りの目も「任せておけば大丈夫」というように変わってきたように感じました。「大会に参加する」という点についても意識できるようになってきました。さらには、日本赤十字兵庫支部より有功章等贈呈式司会進行の役割もいただくことが出来ました。部員も増えつつあります。ある意味、順調に見えます。ただ、ここでも課題が出てきました。各自、一人ひとりが良く頑張っただけに臨むのですが、それで力尽きてしまうという状況です。さらに、学習面に不安を抱える部員も出てきました。高校の部活動は、あくまで高校生としての学習が出来た上でのものです。学習面が不安なままでは部活動どころではありません。部活動をがんばりましたから欠点でも進級させてくださいということにはなりませんし、何より本人のためにはなりません。また、保護者の皆さまに対しても申し訳が立ちません。まず、学習にしっかりと取組んでもらわねばなりません。そこで、**「万一、欠点を取ってしまったなら欠点がなくなるまで部活動禁止(放送室出入禁止)」**という高校の部活動としての原則を徹底することになりました。該当者については、当然、大会にも参加することはできません。

2012年 NHK杯で、ここ数年で“初めて”個人部門で地区予選から県大会準決勝へ進出することができました。これまでは地区予選で「佳作」が精一杯でしたが、ようやく「入選」1名を出すことができました。残念ながら、県大会では大きな壁に跳ね返されましたが、放送委員会にとっても“大きな一歩”となりました。研修にも出かけるようになりました。この年は、FMげんきのパーソナリティから指導を受けることができ、何となく「“全国”へ行きたいな」「トップに追い付きたいな」という空気が出始めたように思います。日本赤十字兵庫支部の有功章等贈呈式司会進行の役割についても、昨年に続き、やらせていただきました。

2013年 明石高校創立90周年の年です。放送委員会もこの式典の司会進行をさせていただくことが出来ました。3年生2名が式典、2年生2名が記念講演会の司会進行を努めました。生徒にとっては緊張したことと思いますが、明石高校卒業生3万名を越えるなかでも90周年式典の司会進行に関わられたのはわずか4名です。誇りに思ってもらってもいいと思います。顧問としては、多少とも放送委員会の活動を認めていただいたこととなりますので、ありがたいことだと思っています。NHK杯についても地区大会個人部門で「入選」3名を出すことができました。いずれも県大会準決勝で大きな壁に跳ね返され、あと一步で決勝進出とはなりませんでしたが、昨年に比べ“少し進歩”することができました。ただ、明高祭(文化祭)翌日の大会ということで、「力尽きた(?)」ということがあるのかもしれませんが。何とか、“もう一步”進んでほしいと思います。夏の研修にも出かけました。研修では、ラジオ関西現役アナウンサーの指導を受けることが出来ました。さらに、学校説明会の司会進行・運営です。秋になると、県総合文化祭会場校です。この大会には県下105校から1,000名を越える参加がありました。生徒も、参加するだけでなく、運営にも関わることが求められます。前日準備では、模試の後にも関わらず、会場設営に清掃にと良く動いてくれました。設営については、こちらが思っていた以上にやってくれて大助かりです。当日についても、受付から後片付けまでよく動いてくれ、他校の先生方からも「よく動いてくれて助かった」との言葉をいただきました。大会も順調に実施することができました。日本赤十字兵庫支部有功章等贈呈式司会進行の役割も3年連続でやらせていただきました。

ついでに、年末には10年以上設置されたままのディスプレイを復活させることができました。以後、“今日の予定”を知らせる役割を担っています。

まさに、いろいろと経験することで生徒は成長することができる、少しの工夫でできることが増えるということが実感できた年になりました。

2014年 大会としては、2月の放送フェスティバルからスタートです。今回は、第3地区だけではなく、第1地区へも参加しました。いずれもアナウンス部門での参加です。第1地区で“入選”、第3地区で“佳作”をいただくことができました。新学期になり、7名の新入部員が入ってきてくれました。例年のことながら、1学期は文化祭(明高祭)とNHK杯と大忙しで取り組みました。さらに、今年は兵庫県高等学校総合体育大会開会式の司会進行も担当させていただきました。当然、“明石高校初”の出来事です。同時並行であれもこれもという状況になりますが、様々な機会をいただけることはありがたいことだと思っています。NHK杯地区予選においても「入選」はなりませんでしたが過去最高数の「佳作」を得ることができました。そして夏、学期末の講演会では、朗読をさせていただく場面がありました。夏季休業期間に入ると、美術科夏季見学会、理数探究類型体験説明会、そして学校説明会へと多くの行事に関わることができました。いずれの行事も、放送委員会どころか学校の名前を背負っています。その中で、一人ひとりがしっかりと役割を果たしてくれました。また、今年4年目となる明高夏休み小学生教室で今回初めて「アナウンス体験」を実施しました。放送委員会として、これまで小学生教室の取材にはでかけましたが、実施することは初めてです。小学1年生から6年生まで40名の参加です。この行事も、部長・副部長が中心となり運営していきました。きっと小学生には“夏の良い思い出の一ページ”になってくれたのではと思います。いずれの行事も顧問は後ろで見ているだけで動けるようになっていきます。部としても年々成長してくれているのがありがたく感じています。願わくば、もう一步、「佳作」ではなく「入選」を、「地区大会」「県大会」ではなく「全国大会」へとコマを進めて行きたいと思っています。

さて、11月。まずオープンハイスクールが今年も実施されました。第1日目は1年生、第2日目は2年生が担当しました。参加された方からは「放送部の声がよく聞こえて分かりやすかった」などの声をいただきました。励みになります。続いて、第38回県総合文化祭です。“もう一步”の思いが多少とも実ったのか、この大会では“明石高校初”を達成することができました。①全部門にフルエントリー、“明石高校初”です。②朗読部門参加者をオーディションで決める、“明石高校初”です。③朗読部門で「入選1」「佳作1」、総合文化祭で賞を得たこと、“明石高校初”です。④総合文化祭個人部門で決勝進出、もちろん“明石高校初”です。でも、課題も残りま

す。決勝では、“あと少し”ということで「賞」を逃しています。来年のNHK杯での“リベンジ”を果たして欲しいと願います。

2015年4月、“放送委員会”は“放送部”へと進化しました！！

2015年 この年、明石市の人権推進課と共同で“戦後70周年平和祈念”ということで作成された“まんが『七夕の願い』”を実写化する取り組みをさせていただきました。作成されたDVDは明石市内全ての学校、公民館などに配布され活用されることになっています。もちろん“明石高校初”の取り組みです。この関連で、明石ケーブルテレビやサンテレビなどにも出演しました。また、第3地区夏季リーダー研修会会場として、研修会を実施しました。明石高校が研修会の会場となるのは初めてのことです。研修には、ラジオ関西やサンテレビなどで活躍されている浅井千華子さんを講師に招いてご指導いただきました。さらには、秋田朝日放送の永井華子アナにもお越しいただきご指導いただきました。

各大会の結果は、NHK杯地区大会では個人部門で佳作を3名がいただきましたが、県大会には届きませんでした。ラジオドラマ部門では、記録を見る限り17年ぶりに入選となり、県大会準決勝に進出しましたが、兵庫県のレベルの高さという厚い壁に阻まれてしまいました。県総合文化祭では、全部部門へ参加しましたが、地区大会での佳作にとどまりました。あと少し、あと少し……。

2016年 今回から2月の放送フェスティバル会場となりました。大会の様子は明石ケーブルテレビで放映されました。GWには、Kiss FM神戸よりパーソナリティの永田早紀さんにお越しいただき、校内で共に『ハイスクールノオト』の取材に取り組みました。この取材を元に、Kiss FMへ行かせていただき、番組収録に取り組みました。収録した番組は、Kiss FMで放送されました。明石高校の作成した番組が公共の電波で流れる……。もちろん“明石高校初”の出来事です。そして、NHK杯。朗読部門で地区大会を突破し、準決勝を突破し、決勝に進出することができました。“明石高校初”の快挙です。また、県総合文化祭でも決勝に進むことができました。その結果、2年ぶりに冬季宿泊研修(個人部門)に参加させていただくことができました。

夏季研修会では、昨年に続き会場校として、BANBANラジオパーソナリティの藤田貴子さんにお越しいただき、参加各校が番組を創って発表していきました。

その他、県総合体育大会開会式の司会進行(3年連続)、日本赤十字兵庫支部有功章等贈呈式司会進行(2年ぶり5回目)、明高夏休み小学生教室“アナウンス体験”(3年連続)などに取り組みんでいます。さらには、“明石高校初”の出来事として、バスケットボールのウィンターカップ場内アナウンス、ラグビーの大会での場内アナウンスなど様々なことに取り組みさせていただきました。

あと少し、あと少し……一歩、一歩……“全国への夢”を実現できるように取り組んでゆきたいと思います。それにしても道は長い……。

2017年 2月、第12回放送フェスティバル会場として大会を運営しました。今回、北部の大雪にも関わらず、東は川西、西は龍野、北は北条、南は徳島から28校が参加です。また、初めて本校生徒がベスト10入りをすることができましたし、進行も進路が決まった3年生が務めてくれました。当然、“明石高校初”の出来事です。午後の研修には、Kiss FM神戸よりパーソナリティの永田早紀さんにお越しいただきました。そして、新年度、72回生6名が新たに参加です。4月のGW、県立東播磨高校で開催された合同練習へ参加しました。1年生も参加です。東播磨高校、市立西宮東高校、加古川南高校と全国大会へ参加する力のある学校との合同練習です。受けた刺激も大きく次へとつながったと思います。また、GW最終日には、大阪芸術大学伊丹学舎で実施されたハイスクールノオトレッスンに参加しました。

そして、いよいよNHK杯です。地区大会では、朗読部門で入選2・佳作1、ラジオドラマ部門で佳作2という結果となり、朗読部門で2名が県大会準決勝に進出しました。さて、準決勝……今年は前日まで明高祭(文化

祭)ということで、まさに休みなしで大会です。その結果、朗読部門で1名が決勝に進出しました。また、テレビドキュメント部門で奨励賞1を得ました。ついに決勝・・・。朗読部門で2年連続出場です。OGも応援にきてくれました。結果、全体の8位で優秀賞となり、全国大会へコマを進めました。放送部の全国大会出場は、40年前にあったようですが、記録がなくはっきりとしたことは分かりません。実質、“明高初”の快挙です。よく頑張ってくれました。よりよく調べると、昭和52年に開催された第24回大会にウエハラさんが朗読部門に出場され、4位になられたようです。

みんなの思いとともに全国大会参加です。**明石高校が40年ぶりに全国の舞台に帰ることができました**。大会では“チーム兵庫”の一員として取り組みました。NHKホールに立つことはできませんでしたが大きな経験となりました。やはり、全国大会はすごい！！

秋には、県総合文化祭開会行事の司会進行、そして県総合文化祭放送文化部門予選会場校として大会の運営にも取り組みました。結果として、朗読部門で佳作1でしたが、次への目標もできました。決勝大会では、テレビ番組部門で奨励賞を獲得しました。さらに、年末には、兵庫県教育委員会主催の“読書推進フォーラム”の司会進行、ラグビーの全国高専大会・全国ジュニア大会の場内アナウンスもさせていただきました。ラグビーの大会では、何と、決勝も含む試合の場内アナウンスです。参加生徒も試合を重ねるにつれ上達してきました。ありがたいことです。ラグビートップリーグの試合の場内アナウンスに取り組んでいる放送部OGもいます。2019年にはラグビーのワールドカップが開催されます。もしかすると、“全国”どころか“世界”への一歩となるかもしれません。

2017年、40年ぶりにNHK杯全国高校放送コンテストに参加しました。

2018年 今年も2月に、2地区の放送フェスティバル(松蔭高校)に参加すると共に、第13回放送フェスティバルの第3地区大会の会場校として大会を運営しました。これで3年連続です。毎年、参加者も増え参加校も38校となりました。そのため、今回初めてアナウンス部門と朗読部門を分けて2会場で運営しました。午後は、番組制作に関する研修に取り組みました。また、今回も地元の明石ケーブルテレビが取材に来てくれました。結果として、佳作1でしたが、良い経験を重ねることができました。

そして新年度、今年も新たに6名が参加してくれました。GWには昨年につき、東播磨高校での合同練習会に参加させていただきました。全国大会常連の東播磨、西宮東をはじめ、加古川南、播磨南、白陵、明石の参加で刺激しあいながら力量を高めていくべく取り組みました。そして、NHK杯です。地区大会ではアナウンス部門で佳作：3、朗読部門で佳作：3、となり、残念ながら個人部門での県大会進出はなりません。県大会では、研究発表部門で奨励賞を得ることができました。とにかく、できることをやり続けることの大切さを実感するNHK杯でした。また、県大会の前日には、明高祭で、3年生を中心に朗読劇「四谷怪談」を実演しました。翌日の県大会では、研究発表部門で奨励賞をいただきました。とにかく番組作成を続ける大切さを感じました。

ようやく夏休み、各地区の研修会への参加、東播磨高校での合同練習会(東播磨、加古川西、明石北、明石)などで刺激を受けながら次の大会への準備をすすめました。神戸野田高校での研修会における“番組の制作について”、明石高校での研修で藤田先生より教えていただいた“音の高さと幅について”、東播磨高校でのDJ番組についてなど大いに勉強になるものばかりです。同時並行で、学校説明会への取り組み、体育大会への準備などを進めてきました。

2学期、県総合文化祭や体育大会、オープンハイスクールの運営などの学校行事とともに、地域イベントやラグビー関係の業務にも取り組みました。

総合文化祭では、朗読部門で佳作：1、テレビドキュメント部門で奨励賞：1を得ました。時間に追われる事も多くなりますが、とにかくやり続ける大切さを感じます。地域イベントでは、ステージの司会進行(台本無し、その時々に出演者に取材)や運営(音響など)を経験しました。ラグビー関係では、年末の全国ジュニア大会の会場アナウンスの業務に取り組みさせていただきました。

2019年 今年は、明石市制施行100周年、明石城築城400年、ラグビーワールドカップと様々なイベントがあります。年度当初からバタバタしてしまい、他地区の放送フェスティバルへは参加しませんでした。第14回第3地区放送フェスティバルの会場校として大会運営にあたりました。しかも、今年は明石市より許可をいただき、「明石市制100周年記念事業」の一環としての開催です。シンボルマークもプログラムに入れさせていただきました。参加者も過去最高を記録しました。地区大会とはいえ、県下各地区、さらには徳島県からの参加もあり、中学生の参加もありと県大会レベルの大会となりました。明石ケーブルテレビの取材もありました。明石高校のみならず、明石地区の学校で上位に入ったのは明石北高校からの1名という結果でした。例年、この第3地区放送フェスティバルで結果を出した生徒は、NHK杯でも全国上位になっています。

新年度、3名の新生が入ってきてくれました。早速、GWに、東播磨高校での合同練習会に参加し、その後、肉フェス、B-1プレイベントの運営など大活躍でした。NHK杯地区大会では、朗読部門で入選1、佳作3、ラジオドキュメント部門で佳作1となりました。その結果、2年ぶりに個人部門で県大会準決勝に進出しました。文化祭2日間で疲れもピークの状態での準決勝、参加者にとってはあまりの状況です。残念ながら、決勝に進出することができず、“夢”は持ち越しです。その他、研究発表部門で奨励賞を受けました。

夏、特に8月前半、各地区研修会への参加、小学生教室など行事が一杯で慌しく時間が過ぎて行きました。その中で、明石高校でも3地区夏季リーダー研修を実施しました。プロ講師として、藤野孝教氏(昭和プロ 浜村淳氏、キダタロー氏と同じ事務所)をお招きし、「声の作り方」「声のコントロール」などについて教えていただきました。また、参加者の交流を深めるため、同じ学校の生徒が入らない形で班を作り、班の対抗でミニコンテストを実施しました。原稿作成には野球部も協力してくれました。非常に猛暑の中での研修会でしたが、参加生徒からは「面白かった」「普段の練習に取り入れたい」との声も聞かれました。さらには、2年ぶりにラジオ関西特別講習会にも参加させていただきました。個人部門では現役アナウンサーから直接指導を受けることができ、製作部門でも現役ディレクターから指導を受けられるとともに、実際に番組収録まで体験できる機会です。参加者も「今までで一番勉強になった」という感想を持つほどの内容でした。そして、ようやく盆休み……。8月後半、合同練習会(東播磨・播磨南・明石北・明石)からのスタートです。

2学期、当初から多くのことが同時並行で進む状況で、なかなか落ち着いて部活動に取り組むことができずに時間が過ぎて行きます。その中でも、時にはOBの力を借りつつ体育大会に取り組み、総合文化祭にもオープンハイスクールにも取り組みました。さらには、兵庫県赤十字有功章等贈呈式の司会進行もやらせていただきました。総合文化祭予選では朗読部門：佳作1に留まりましたが、多くの学校が時間オーバーや読み違い、改変などで失格や減点になる中、何の問題もなく参加できたことは一つの誇りです。決勝へはテレビドラマ部門でと取り組みましたが、残念ながら力尽きてしまいました。でも、明石市制施行100周年記念行事のラストを飾るB-1グランプリ全国大会へボランティアとして参加することができました。これには、OBも参加してくれ、共に2日間で31万4千人の来場された方々をおもてなしすることができました。

まだまだ課題が残りますが、2020年へ向けて少しでも改善できるように取り組めればと思います。

2020年 今年も2月に第3地区第15回高校放送フェスティバル会場校としての運営からはじまりました。結果として、朗読部門で佳作2となり、まあまあのスタートです。(最初にも記していますが)ここからが“ありえないこと”の連続でした。2月27日に安部首相の「休校要請」があり、卒業式も在校生の出席なし、音楽部無しで簡素化して実施することになりました。このような状況でしたが、放送部は、「卒業生に寂しい思いをさせたくない」という思いで運営に携わりました。式後はすぐに下校する必要があるため、例年放送室で実施している歓送会ができず、生徒は残念な思いでした。以後、休校が続き、部活動もできない状況が続きました。4/8の入学式も不可となり、代わりに新入生説明会となりました。ここでも、放送部は、「新入生に入学した気持ちになってほしい」という思いで運営に携わりました。ただ、説明会終了後はすぐに下校する必要があります。そして、5/6ま

での休校となりました。さらに、4月28日には5月31日までの休校期間の延長が決定されました。この間、新入生と接触することもできず、大会はどうなるか、部活動は存続できるのか、不安の中での新年度スタートです。まさに絶滅危惧種からのスタートです。

NHK杯については、通常とは異なる形であっても何とか開催できないか模索を続けましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況の中、苦渋の決断で中止となりました。最初で最後のNHK杯全国高校放送コンテスト兵庫大会もなくなりました。ただ、3年生の最後の機会を設けることができないかと試行錯誤を続け、NHK杯の代替として“2020兵庫大会記念 放送コンテスト”が非公開審査で実施されました。とにかく74校が参加です。もちろん、明石高校も2・3年生全員で個人部門に参加しました。番組部門については、様々な制約もあり見送りました。ただ、3年生全員が参加できたことは良かったと思います。ただ、明石市内の高校から参加したのは明石高校だけでした。決勝大会に進むことはできませんでしたが、よくがんばってくれたと思います。また、学校紹介動画のアフレコにも取り組みました。YouTubeでの公開となり、放送部としての足跡を残すことができました。新入部員については、6月も中旬になり、ようやく1年生の部活動見学も始まり、数名が放送室を覗いてくれました。結果、7名が参加してくれました。“夢”はつながりました。その後、新入部員は12名にまできました。ありがたいことです。

早速、以前から声を掛けていただいたKISS FMの“ハイスクールノオト”に参加しました。学校を取材し、KISS FMへ行き番組を作成するというものです。全員1年生という布陣で取り組みました。1年生にとっては、訳の分からないうちに「行く」ということになりましたが貴重な経験ができたと思います。もちろん、番組は全県対象に放送されました。非常にありがたかったです。さらに、代替大会の一つとして、ラジオ関西さん開催の“#放送部の夏 高校アナウンスフェア”に全員で参加しました。ラジオ関西さんで選考のうえ、オンエアされることとなります。また、県立こどもの館主催の朗読コンクールに全員が“動画”で参加しました。その結果、1名が第一次審査を通過することができました。ただ、それ以外は全て中止の夏になりました。

感染拡大も何とか落ち着きつつある中で秋になりました。11月3日の総合文化祭予選については、人数制限をするなどできるだけの対策の中で実施され、本校からはアナウンス部門：佳作1、ラジオドキュメント部門：佳作1となりました。“あと少し”という部分もありますが、とにかくできることはやってくれたと感じます。明高祭代替の文化部発表会、オープンハイスクールもこの時期に開催されました。さあこれからと思った11月中旬以降、新型コロナウイルス感染が大きく拡大し、連日100名を超える状況となりました。この影響で、11月20日には11月30日に予定されていたJRCの130周年記念大会が中止となりました。非常に残念です。総合文化祭決勝については、11月22日に姫路市市民会館で“できるだけ感染対策”をとりながら開催されました。本校はテレビドキュメント部門で奨励賞をいただきました。とにかく開催することができヤレヤレです。また、11月29日の県立こどもの館主催の朗読コンクールでは審査委員特別賞をいただくことができました。さらに、12月にはラジオ関西主催の「高校生明るい“防災”CMコンテスト」に応募しました。年末にかけても感染拡大は続いています。年明けの放送フェスティバルについては「各地区内のみ、中学校の参加なし」とすることが決まりました。毎回の大会が「これで最後になるかも」という気持ちの連続です。まさに精神戦が続きます…

2021年への思い 放送部、ついに絶滅危惧種？あるいは不死鳥のごとく…？

2020年、本来であれば、東京オリンピック・パラリンピックをメインに盛り上がりのある年になるはずでした。しかしながら、春先からの新型コロナウイルス感染拡大に伴い3月初めから3か月にもわたる長期の臨時休校期間があり、まさに部活動どころではない状況が続きました。放送部にとって最大の大会であるNHK杯も中止となりました。それも、NHK杯の歴史の中で唯一の地方開催“全国大会兵庫県開催”です。それも準備に5年の歳月をかけて準備し、あと少しの調整で開催を待つばかりとなっていた大会です。もう二度と兵庫県で開催されることのない大会が幻となって消えてしまいました。「来年」はありません。特に、「地元開催なのだ。兵庫県のための全国大会にしよう」と取り組んできた放送部の生徒たち(特に3年生)にどのように説明できるのか、なか

なか思いつきませんでした。よく「切り替えて次がんばろう」ということになりませんが、3年生にとって「次」はありません。兵庫県にとっても「次」はありません。放送部の部員たちにとって“全国”に触れる滅多に経験することができない機会が無くなってしまいました。「辛抱、耐える」しかないのかもしれませんが。

ただ、このような経験は、今まで誰も経験したことが無いものです。前例がありません。ということは、これからの取り組みが将来の前例となります。2020の経験を土台に、将来へ向けてより良いものになるような取り組みが少しでもできればと思います。

現在、明石高校は現2年生1人、現1年生12名が放送部に参加しています。何かと制約がある現状ですが、「できる事」を積み重ねて、みんなで“全国”という夢を追いかけていきたいと思います。

ここ数年の状況・・・

兵庫県内の放送部の中における明石高校放送部の位置としては、「とにかく県大会レベルまでの大会の決勝には参加できている」「とりあえず決勝の常連にはなっている」「時々、ラグビーやバスケットなどの放送関係の依頼をいただいている」というレベルです。今年は全てキャンセルとなっていますが…。

実際、NHK杯や総合文化祭では、地区予選から決勝へ進出するだけでも大変なのですが、少しずつでも“決勝での結果”を求めて行けるよう進歩して欲しいと思っています。地区大会で100校を超える参加校のうち、県大会決勝まで参加できるのは30校くらいしかありません。とりあえず、その30校の間にはなりつつあります。長い時間がかかりましたが、何とかここまでは来ています。2017年には念願の“全国大会”へ出場することができました。長年の“夢”が少し実現しました。40年の時間がかかりました。続く2018年、2019年とも“全国大会”へ出場することはできませんでした。次の“全国大会”がまた“40年ぶり”とならないよう、“あと一步”を進めることができるように取り組みねばと思います。そして、“全国大会出場”が当たり前の部活動を目指したいと思います。

部員には、今の状態に満足するのではなく、一人一人が「全国へ」の思いを持って、“決勝で結果”が出せるように頑張りたいと願います。できない理由を探して何もしないのであれば平和かもしれませんが、すると、進歩はしません。自己満足での進歩はありません。現状、このような状態に陥っているかもしれません。

進歩しようと思うなら、多少忙しくとも、とにかくチャレンジをし続ける。そうすることが、生徒一人ひとりにとっても“可能性を広げる”こととなります。こうこう卒業後の進路にもつながることです。今の状態に満足するなら“MOTTAINAI”“残念でした”で終わってしまいます。明石高校へ入学してきた意味が半減してしまいます。顧問の思いとしては、

GO in peace ! Be strong ! Never give up ! We can do it !

ということですので。“夢の全国”、40年に一度で終わらせてはなりません。あきらめなければチャンスはあります。ちなみに、2020年の全国大会は、兵庫県、まさに地元開催です。さらに2023年には明石高校創立100周年となります。その時には“全国”へ参加できるようにチャレンジして行きましょう！！

受検生の皆さんへ

～ 現在の社会で求められる“思考”“判断”“表現”が体験できるのは放送部 ～

放送部の生徒には、“放送室で活動する”だけではなく、“外で取材もする”放送部としてこれからも活動して欲しいと思っています。取材することが、アナウンスのネタになり、番組作成のネタになり、さらに放送部をアピールすることになり、なにより自分自身の視野を広げ、力を蓄積できることになりと利点が一杯です。時には、上手くいかないこともあります。しかし、一度や二度の失敗であきらめては面白くないです。人生がMOTTAINAIです。失敗があるから成功もあります。何もかも上手く行く、失敗のない人生などあり得ないです。

上手く行かないことがあるから上手く行った時の喜びも大きくなります。要は、「高校は“チャレンジする場”です。あきらめずに何度でもチャレンジしてみること」です。そのチャレンジは誰かが見えています。チャレンジするからこそ分かることも多くあります。ノーベル賞学者も語っていますが、「実験は 90%以上失敗するもの。その失敗をどう生かすかということが大切」ではないでしょうか。何も無いところからは何もできません。しかし、例えそれが失敗でも、何かキッカケさえあればそこから物事は広がって行きます。“夢”は広がってきます。

反面、もし「放送室で活動するだけ」「おしゃべりクラブ」になるようでは“夢の実現”“リベンジ”どころか「部活動の存続」に関わるかもしれません。個人としても“貴重な時間の浪費”になりかねません。「高校生、忙しくて当たり前。その中でいかに時間を有効に使うのか。腕の見せ所」です。

このホームページを見ていただいている受験生のみなさん、あるべき高校生活をしたいと思っているみなさん、是非、明石高校へチャレンジしてください。共に“全国”を目指しましょう。“夢”の実現にチャレンジしましょう。明石高校はまだまだ発展途上です。みなさんの“頑張り”でより良くなります。良くなるということは、皆さんの力が伸びたということです。皆さんの力を伸ばすフィールドがあります。

2021 年秋、明石高校は総合文化祭予選会場になります。さらに、2023 年には“創立 100 周年”となります。頑張れば、滅多にできない記念への関わりが実現できるかもしれません。

明石高校放送部の歴史発掘！！～分った範囲で・・・～

平成24(2012)年以来、明石高校放送委員会(放送部)の歴史を発掘しようとして、いろいろと探してみましたが、2004年以前がさっぱり分からず、何とかもう少しと探してみたところ、ありました、見つかりました、探せばあるものです。今回も分かる範囲で記入していきます。当然、かなりの時間の経過で十分なものにはできません。お許しください。また、情報などありましたらお教えてください。

放送委員会のスタート

残されている各種“周年記念誌”を探してみると、見つかりました。放送部は、学制改革により、明石中学校が明石高校となった翌年、昭和24年に放送委員会としてスタートしたことが分かりました。残念ながら、どのような活動をしていたのかということまでは分かりませんが、文化部の一つとして存在しています。その後、どのような経緯があったのは分かりませんが、昭和50年代には、放送委員会と放送部が並立する時代があり、いつしか生徒会執行部の報道機関としての放送委員会という位置づけになりました。何と、規定によれば文化部ではなく、あくまで生徒会執行部の報道機関という扱いですので、規定上は各種大会に出れば規定違反の状態になるという状態にありました。しかしながら、記録を見ると、大会には番組部門でホソボソと参加しているという状況が続いていたようです。平成10年には全国大会まであと一歩というところまで行ったこともあったようです。しかし、この状況は変わりません。平成21年頃からは、部員も増え、各種大会への参加も増えてきました。しかも、全ての学校行事に関わることができるようになってきました。ようやく規定が変わったのが、平成26年。翌平成27年からは、放送委員会は、規定上も報道機関ではなく、文化部として活動することになります。名称についても、放送委員会ではなく、放送部となります。

2015年4月、“放送委員会”は“放送部”へと進化しました。

ということで、以後は“放送部”です。

令和の時代を迎えて・・・放送部の悩み・・・

平成の半ばより“少子高齢化”が叫ばれ、今や人口の27%以上が65歳以上という超高齢社会となっています。それに伴い、生徒数も減少し学校の統廃合も進むという状況です。すると、当り前のことですが、各部活動に参加する部員数も減少するということになります。

下の表からも一目瞭然ですが、令和2年のNHK杯が終了し、73回生が引退となると74回生は2名しかいません。75回生となる新生が参加しなければ令和3年の夏に部員が0になるという事態に直面します。ついに幕引き店じまい・・・？イエイエ、そのような事態にならないよう部員も顧問も取り組みますが・・・。結果、ありがたいことに、75回生からは12名の参加がありました。“夢”がつながります。

ただ現実問題として、近隣校をみると今年(令和元年)は3年生のみということで、夏以降、大会に参加できない状況の学校が目立つようになっていきます。顧問として、大きな危機感を持っています。もう10年以上も前になると思いますが、当時の教育長が「何事も最悪のケースを考えて行動せよ。そうすれば何事にも落ち着いて対応できる」とおっしゃっていたことを憶えています。今はまさにその時期かもしれません。今、部員がいるから大丈夫ではなく、これからも部員が卒業する時に「放送部に参加して良かった」と思えるように、部員とともに諦めずに取り組んでやっていこうと改めて思います。

明石高校が全国へ行くために、皆さんの力が必要です。

共に“全国への夢”を実現させましょう！！

顧問・部員数など・・・

	顧問	3年生	2年生	1年生	NHK杯会場 上段：地区大会 下段：県大会	県総文会場 上段：予選 下段：決勝
1971	* この年以前は部活顧問不明					
1972 (S47)	田浦・小倉 ・飯尾	25回生 男?女?	26回生 男?女?	27回生 男?女?	? ?	? ?
1973 (S48)	藤原・小倉 ・田浦・大越智	26回生 男?女?	27回生 男?女?	28回生 男?女?	? ?	? ?
1974 (S49)	小倉・田浦 ・大越智・押原	27回生 男?女?	28回生 男?女?	29回生 男?女?	? ?	? ?
1975 (S50)	小倉・田浦 ・大越智・押原	28回生 男?女?	29回生 男?女?	30回生 男?女?	? ?	? ?
1976 (S51)	小倉・田浦・押原・ 大越智・川口	29回生 男?女?	30回生 男?女?	31回生 男?女?	? ?	? ?
1977 (S52)	小倉・田浦 ・大越智・○田	30回生 男?女?	31回生 男?女?	32回生 男?女?	? ?	? ?
1978 (S53)	小倉・楞野 ・田浦・亀田	31回生 男?女?	32回生 男?女?	33回生 男?女?	? ?	? ?
1979 (S54)	小倉・亀田 ・十名・永田	32回生 男?女?	33回生 男?女?	34回生 男?女?	? ?	? ?
1980 (S55)	?	33回生 男?女?	34回生 男?女?	35回生 男?女?	? ?	? ?
1981 (S56)	?	34回生 男?女?	35回生 男?女?	36回生 男?女?	? ?	? ?
1982 (S57)	?	35回生 男?女?	36回生 男?女?	37回生 男?女?	? ?	? ?
1983 (S58)	?	36回生 男?女?	37回生 男?女?	38回生 男?女?	? ?	? ?
1984 (S59)	?	37回生 男?女?	38回生 男?女?	39回生 男?女?	? ?	? ?
1985 (S60)	?	38回生 男?女?	39回生 男?女?	40回生 男?女?	? ?	? ?
1986 (S61)	?	39回生 男?女?	40回生 男?女?	41回生 男?女?	? ?	? ?
1987 (S62)	上村 ・藤原(勝)	40回生 男?女?	41回生 男?女?	42回生 男?女?	? ?	? ?
1988 (S63)	?	41回生 男?女?	42回生 男?女?	43回生 男?女?	? ?	? ?
1989 (H元)	藤原(勝) ・小林	42回生 男?女?	43回生 男?女?	44回生 男?女?	? ?	? ?
1990	藤原(勝)	43回生	44回生	45回生	?	?

(H2)	・小林	男?女?	男?女?	男?女?	?	?
1991 (H3)	藤原(勝) ・小林	44 回生 男?女?	45 回生 男?女?	46 回生 男?女?	?	?
1992 (H4)	?	45 回生 男?女?	46 回生 男?女?	47 回生 男?女?	?	?
1993 (H5)	小林・黒部	46 回生 男0女4	47 回生 男0女7	48 回生 男0女3	?	?
1994 (H6)	小林・黒部	47 回生 男0女5	48 回生 男0女5	49 回生 男0女2	?	?
1995 (H7)	小林・倉田 ・竹田	48 回生 男0女5	49 回生 男0女2	50 回生 男1女0	明石高校 ?	?
1996 (H8)	小林・倉田 ・竹田・菅野(陽)	49 回生 男0女3	50 回生 男0女0	51 回生 男3女3	?	?
1997 (H9)	小林・倉田 ・浦本・竹田	50 回生 男0女0	51 回生 男2女10	52 回生 男0女3	?	?
1998 (H10)	小林・菅野	51 回生 男1女11	52 回生 男0女3	53 回生 男0女0	?	?
1999 (H11)	小林・大倉	52 回生 男0女4	53 回生 男0女2	54 回生 男0女2	?	?
2000 (H12)	小林・高橋	53 回生 男0女4	54 回生 男0女3	55 回生 男0女4	?	?
2001 (H13)	高橋・大森 ・山本(茂)	54 回生 男0女3	55 回生 男0女4	56 回生 男1女0	?	?
2002 (H14)	高橋・倉田 ・植野	55 回生 男0女3	56 回生 男0女2	57 回生 男0女0	?	?
2003 (H15)	?	56 回生 男?女?	57 回生 男?女?	58 回生 男?女?	?	?
2004 (H16)	植野・倉田 ・高橋	57 回生 男0女1	58 回生 男1女7	59 回生 男0女2	?	?
2005 (H17)	植野・倉田 ・高橋	58 回生 男3女7	59 回生 男0女1	60 回生 男0女0	?	?
2006 (H18)	植野・岩崎 ・倉田	59 回生 男2女3	60 回生 男0女0	61 回生 男0女0	?	?
2007 (H19)	植野・倉田 ・山中	60 回生 男0女0	61 回生 男0女5	62 回生 男0女0	小野高校 ?	?
2008 (H20)	倉田・山中・深	61 回生 男0女6	62 回生 男2女0	63 回生 男1女2	淡路三原高校 甲南大学	豊岡高校 イーグレ姫路
2009 (H21)	山中・丹野・奥	62 回生 男3女0	63 回生 男2女2	64 回生 男3女1	高砂南高校 甲南大学	加古川東高校 三木市民会館
2010 (H22)	山中・奥	63 回生 男2女2	64 回生 男3女1	65 回生 男0女5	明石高校 神戸学院大学 ポーフイ	神戸高校 流通科学大学

2011 (H23)	山中・奥	64 回生 男 3 女 1	65 回生 男 0 女 4	66 回生 男 1 女 5	小野高校 神戸学院大学 <small>ホーアイ</small>	雲雀丘学園高校 西宮市民会館
2012 (H24)	山中・奥	65 回生 男 0 女 4	66 回生 男 1 女 6	67 回生 男 5 女 4	津名高校 神戸学院大学 <small>ホーアイ</small>	龍野北高校 姫路市市民会館
2013 (H25)	山中・丹野	66 回生 男 1 女 7	67 回生 男 5 女 3	68 回生 男 2 女 5	高砂高 甲南大学	明石高校 小野市民会館
2014 (H26)	山中・津國 ・丹野	67 回生 男 4 女 3	68 回生 男 2 女 5	69 回生 男 1 女 6	明石南高校 甲南大学	甲南女子高校 神戸芸術工科大学
2015 (H27)	山中・丹野 ・山本和	68 回生 男 2 女 5	69 回生 男 1 女 6	70 回生 男 0 女 2	三木高校 甲南大学	尼崎稲園高校 大阪芸術大学伊丹
2016 (H28)	山中・山本和 ・阪本	69 回生 男 1 女 5	70 回生 男 0 女 3	71 回生 男 3 女 4	津名高校 甲南大学	琴丘高校 姫路市市民会館
2017 (H29)	山中・山本和 ・岡部	70 回生 男 0 女 3	71 回生 男 3 女 4	72 回生 男 0 女 6	加古川東高校 甲南大学	明石高校 明石市民会館
2018 (H30)	山中・山本和 ・岡部	71 回生 男 3 女 4	72 回生 男 0 女 5	73 回生 男 1 女 5	明石北高校 甲南大学	神戸星城高校 甲南女子大学
2019 (H31=R 元)	山中・山本和 ・岡部	72 回生 男 0 女 4	73 回生 男 0 女 5	74 回生 男 0 女 3	小野高校 甲南大学	西宮香風高校 東りいたみホール
2020 (R2)	山中・櫻井	73 回生 男 0 女 5	74 回生 男 0 女 2	75 回生 男 0 女 12	新型コロナウイルス感 染拡大のため中止 淡路三原高校 神戸学院大学 <small>ポートアイランド</small>	姫路大学 姫路市市民会館
2021 (R3)		74 回生 男女	75 回生 男女	76 回生 男女	兵庫大学	明石高校 加古川市民会館
2022		75 回生 男女	76 回生 男女	77 回生 男女	明石地区	第 2 地区
2023		76 回生 男女	77 回生 男女	78 回生 男女	北播地区	第 1 地区

* 今の所ここまでで精一杯状態です。まだどこかを探せば何か分かることもあるとは思いますが・・・情報が
ありましたらお教えてください。申し訳ありません。

大会での記録(賞を得たもの)など、これ以前のは放送室に残っていません・・・どこにあるのやら・・・

昭和 47 年 6 月 18 日	第 10 回兵庫県高等学校 放送コンテスト東播地区予選	ラジオ番組部門優勝	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 廣瀬卯一
昭和 50 年 8 月 31 日	第 2 回テーブ録音コンテスト	録音技術賞 放送部実験的グループ A 班	神戸新聞文化センター 株式会社三和商会
昭和 50 年 8 月 31 日	第 2 回テーブ録音コンテスト	奨励賞 放送劇・星新一原作「支出と収入」 放送部 1 年 B 班	神戸新聞文化センター 株式会社三和商会
昭和 51 年 6 月 13 日	第 23 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオテーマ I 部門 入賞	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 市橋 勉
昭和 53 年 6 月 10 日	第 25 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオテーマ II 部門 入選	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一

昭和53年11月26日	第23回兵庫県高校放送コンテストジュニア大会	ラジオ番組制作テーマⅡ部門 佳作「戦争を知らない子ども達」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一
昭和55年6月8日	第27回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ自由部門 ? 「瞬間」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一
昭和55年9月8日	ラジオ関西企画 “甲子園への道”参加	優秀作品賞	株式会社ラジオ関西 制作局長 神原久孝
昭和56年6月7日	第28回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ自由部門 佳作「応援歌は・・・？」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一
昭和56年9月10日	ラジオ関西企画 “甲子園への道”参加	優秀賞	株式会社ラジオ関西企画 取締役社長 阪上 豊
昭和57年2月11日	兵庫県高校放送コンテスト ジュニア大会	ラジオ番組課題部門 銅賞	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一
昭和57年6月6日	第29回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組自由部門 佳作「もう一つの野球部」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一
昭和57年6月6日	第29回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組自由部門 佳作「カムバック明高祭」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一
昭和59年6月10日	第31回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ課題部門 第2位「親友ってなあに？」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 川村治之
昭和59年6月10日	第31回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ課題部門 第3位「チャイ夢」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 川村治之
昭和59年6月10日	第31回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ自由部門 佳作「鏡の消えた日」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 川村治之
昭和59年6月24日	第31回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会決勝	ラジオ番組課題部門佳作 「親友ってなあに？」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長
昭和59年9月14日	ラジオ関西企画 “甲子園への道”参加	最優秀賞	株式会社ラジオ関西 取締役社長 阪上 豊
昭和60年6月9日	第32回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ課題部門 佳作「AIM」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 川村治之
平成2年11月18日	兵庫県高校放送コンテスト ジュニア大会	ラジオ番組制作自由部門 佳作「変わりつつある制服」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 永井万介
平成3年6月2日	第38回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ自由部門 佳作「？」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 永井万介
平成5年6月6日	第40回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ自由部門 入選「I'm Every Woman」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 松浦 潔
平成5年6月6日	第40回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ課題部門 佳作「両手いっぱい的好奇心」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 松浦 潔
平成5年11月3日	兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門 /高校放送缶テストジュニア大会	ラジオ番組自由部門 入選「あきかんものがたり」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 松浦 潔
平成5年11月21日	兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門 /高校放送缶テストジュニア大会	ラジオ番組自由部門 銅賞「あきかんものがたり」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 松浦 潔
平成6年6月5日	第41回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組課題部門 第1位「夢の階段」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興
平成6年6月5日	第41回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組自由部門 第1位「やさしさをもう一度」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興
平成6年11月3日	第18回兵庫県高等学校総合文化祭・放送文化部門大会予選	ラジオ番組制作自由部門 佳作「ポパイからフェミオへ」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興
平成6年11月20日	第18回兵庫県高等学校総合文化祭・放送文化部門大会決勝大会	テレビ番組制作部門 佳作「まあるくて黄色いものなんだ」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興
平成7年6月4日	第42回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組自由部門 入選「変身サロン」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興
平成7年6月4日	第42回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組課題部門 入選「少年少女よでっかい大使を抱け」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興
平成7年6月4日	第42回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組自由部門 入選「見上ゲル男」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興

平成 10 年 6 月 7 日	第 45 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	創作ラジオドラマ部門 佳作「山のサル」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 中島 寛
平成 10 年 6 月 7 日	第 45 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	創作ラジオドラマ部門 入選「船旅行」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 中島 寛
平成 10 年 6 月 7 日	第 45 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組第Ⅱ部門 入選「明石海峡」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 中島 寛
平成 10 年 6 月 21 日	第 45 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会決勝大会	ラジオ番組第Ⅱ部門 第 4 位「明石海峡」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 中島 寛
平成 18 年 11 月 3 日	第 30 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門大会予選	ラジオ番組小部門(ドラマ) 佳作「心の瞳」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 服部雅幸
平成 19 年 6 月 3 日	第 54 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	創作ラジオドラマ部門 佳作「答えの出るえんぴつ」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 服部雅幸
平成 22 年 6 月 6 日 明石高校	第 57 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	創作ラジオドラマ部門 佳作「なんくるなんさ〜大丈夫」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 喜多勝己
平成 23 年 6 月 5 日 小野高校	第 58 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	創作ラジオドラマ部門 佳作「decode〜デコード〜」 佳作「ありのまま」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林勝美
		アナウンス部門：佳作 1 朗読部門：佳作 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林勝美
平成 24 年 6 月 3 日 津名高校	第 59 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	アナウンス部門：入選 1 佳作 1 朗読部門：佳作 2	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 25 年 6 月 2 日 高砂高校	第 60 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	アナウンス部門：入選 2 佳作 1 朗読部門：入選 1 佳作 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 25 年 6 月 16 日 甲南大学	第 60 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会決勝	研究発表部門 奨励賞「昼放送について」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 26 年 6 月 1 日 明石南高校	第 61 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオドラマ部門 佳作「清くない一票」 アナウンス部門：佳作 1 朗読部門：佳作 4	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城 兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
		創作テレビ部門 奨励賞 「オカルト研究会マル秘映像録」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 26 年 11 月 2 日 甲南女子高校	第 38 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	朗読部門：入選 1 佳作 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 26 年 11 月 16 日 神戸芸術工科大学	第 38 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門決勝大会	テレビ部門 奨励賞 「からあげVSカツサンド」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 27 年 6 月 7 日 三木高校	第 62 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	朗読部門：佳作 3 ラジオドラマ部門：入選 「トモダチコウセイ」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 27 年 11 月 3 日 尼崎稲園高校	第 39 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	朗読部門：佳作 1 ラジオドラマ部門：佳作 「友神様のいうとおり」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 28 年 6 月 5 日 津名高校	第 63 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオドラマ部門：佳作 「勇気をだして」 アナウンス部門：佳作 1 朗読部門：入選 2	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 28 年 6 月 18 日 甲南大学	第 63 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会準決勝	朗読部門：決勝進出 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 28 年 6 月 19 日 甲南大学	第 63 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会決勝	朗読部門：奨励賞	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城

平成 28 年 11 月 3 日 琴丘高校	第 40 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	朗読部門:入選 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 28 年 11 月 20 日 姫路市市民会館	第 40 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門決勝	朗読部門:奨励賞 テレビ部門:奨励賞 「植え続ける理由」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 29 年 6 月 4 日 加古川東高校	第 64 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオドラマ部門:佳作 2 「ことばとこころ」 「教えて!美術科生」 朗読部門:入選 2・佳作 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 29 年 6 月 17 日 甲南大学	第 64 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会準決勝	朗読部門:決勝進出 1 テレビドキュメント部門: 奨励賞 1「創造する未来」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 29 年 6 月 18 日 甲南大学	第 64 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会決勝	朗読部門:優秀賞 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 29 年 7 月 25 日 国立オリンピック記念 青少年総合センター	第 64 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト準々決勝	準決勝進出: 0	
平成 29 年 11 月 3 日 明石高校	第 41 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	朗読部門:佳作 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 29 年 11 月 19 日 明石市民会館アワー ズホール	第 41 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門決勝	テレビ部門:奨励賞 「密着!生徒会の 10 時間」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 30 年 6 月 3 日 明石北高校	第 65 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	アナウンス部門:佳作 3 朗読部門:佳作 3	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸
平成 30 年 6 月 16 日 甲南大学	第 65 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会準決勝	研究発表部門:奨励賞 1 「放送部と生徒会の関係」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸
平成 30 年 11 月 4 日 神戸星城高校	第 42 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	朗読部門:佳作 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸
平成 30 年 11 月 18 日 甲南女子大学	第 42 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門決勝	テレビドキュメント部門: 奨励賞 「繋げ!未来のために」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸
令和元年 6 月 2 日 小野高校	第 66 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	朗読部門:入選 1 佳作 3 ラジオドキュメント部門: 佳作「チャイム」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸
令和元年 6 月 15 日 甲南大学	第 66 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会準決勝	朗読部門:決勝進出 0 研究発表部門:奨励賞 1 「最適解とは?」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸
令和元年 11 月 3 日 西宮香風高校	第 43 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	朗読部門:佳作 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸
令和 2 年 6 月 7 日 淡路三原高校 中止	第 67 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選 中止	新型コロナウイルス感染拡大のためNHK杯全て中止	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和 2 年 6 月 20 日 東播磨高校	“2020 兵庫大会記念 放送コンテスト”(非公開審査)	アナウンス部門:予選 2 朗読部門:予選 5	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和 2 年 11 月 3 日 姫路大学	第 44 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	アナウンス部門:佳作 1 ラジオドキュメント部門: 佳作「なんでだろう?学校の不思議…」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史

令和2年11月22日 姫路市市民会館	第43回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門決勝	テレビドキュメント部門： 奨励賞「夏休みを返せ！」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和3年6月 日	第68回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選		